は、WAMNETの事業者情報にリンクします。 には、リンクがあります。

事業所名 グループホーム白寿荘

付 平成16年11月9日 日

評価機関名 社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会

評価調査員

介護支援専門員歴 4年

病院での痴呆性高齢者の看護、介護業務歴 36年

自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)

事業者のコメントを見る (評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります!)

外部評価の結果

護評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

1 ユニット6人と小規模なことにより、入居者一人ひとりの状態に応じたケアが可能となっています。 全員が一つの家族のような雰囲気があり、落ち着いています。

ホームの床全体がフローリングで雰囲気が柔らかく、家庭的な印象がありました。

管理者が栄養士の資格を有した方で、食事が品数も多くバランスの良い、豊富なものとなって いました。

各種行事への参加や家族と職員の交流、情報交換等も積極的になされており信 家族会があり、 頼関係が築かれています。

特養の機能とうまく連携、活用されており、リハビリへの参加や喫茶コーナーの利用等が日々自由に行なわれ、入居者の健康維持と楽しみの機会が提供されています。積極的な外出の機会も多く、入居者,職員(時には家族も一緒に)それぞれが楽しんで交流できています。

特養の代表者が職員を信頼しており、グループホームの管理者は愛着を持って働いており、職 員も楽しむとともに能力を発揮しながら業務にあたっています。

特に改善の余地があると思われる点

全体的に良い管理がなされており、あえて言えば次の点が上げられると思います。

脱衣所のスペースが、車いすでの移動を必要とする人には狭いのではないでしょうか。 職員が法人内の異動で定期的に変わる時に同じ対応が出来るためにも、骨折など緊急時の対処 は、連絡方法などマニュアル化されていることが必要と思われます。 施設増築のため、畑がなくなったということで、土にふれるスペースがあれば良いのではない

がある。 でしょうか。 居室の表札と目印が高い位置にあり、目線の高さになるような工夫があればわかりやすいので

はないでしょうか。

運営理念

建口	生心		
番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	・「毎日を、明るく、楽じく、落ち着いて家庭のように思って生活し 含めて怒ったり、泣いたり、最後には笑いあえたら良い」という思い されています。		
	・行事も多種多様多回数で季節に合わせたイベント、誕生会、買物、 設としてのイベントへの参加も含めて、積極的に計画、参加、実践さ 持向上、社会関係能力の維持、向上になっています。		
	・家族の人にも本音で話をしていただける関係作り、場所作りに努力	されています	t .
	・職員は表情が明るく、柔らかく,愛着を持って働く喜びを感じてい	ました。	

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 人居者と同じ目線の高さで、個々人の生活歴を大切にして、その方の持っている能 力を日常生活に生かしてもらうようさりげなく援助しています。入居者の生活のリズ ムに合わせるよう職員も接しており、できることをしてもらえるような声かけをして います。入居者が"出来る事"の申し出も拡大してきています。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機 関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		_
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	 各スタッフが入居者のできることを尊重し、支援が必要な場合も押し付けでなくさりげなく支援されています。調理を手伝う人、片付ける人、洗濯を干す人、たたむ人など自分の関心のあることや出来ることが自然にされています。 ・居室の鍵は、中からかけられるようになっており、入居者のプライバシーが守られる配慮 		

がありました。 ・昼間帯は特養とホームの出入りが自由で、特養の入居者や職員との交流も自由でした。

運営体制

	番号	項目	できている	要改善
	31	責任者の協働と職員の意見の反映		
	32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
	33	家族への日常の様子に関する情報提供		
	34	地域との連携と交流促進		
	35	ホーム機能の地域への還元		
	記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として 何か。	、努力してい	るものは
		・どなたでも来やすく、過ごしやすい雰囲気づくりを目指してい	います。	

- ・食事を大切に考え、食べる楽しみと栄養のパランスに配慮し、季節のものや野菜を 多く取り入れ、行事の際には手作りケーキを用意するなどの工夫がありました。
- ・ 入居者の尊厳を大切にしながら、家庭に近づく事が出来るように、親しみのもてる接し方を心掛けています。
 ・ 家族の方には、事実を伝え理解して頂くよう、気兼ねなく意見が言ってもらえるよう、日頃からコミュニケーションに気を配っています。